



100年前、千葉市が誕生しました!

市制100周年

千葉市が1921年(大正10年)1月1日に市制を施行してから、ちょうど100年になります。この100年、千葉市はどのようにあゆみ、発展してきたのかをデータで紹介します。

圏都市アイデンティティ推進課
☎245-5660 FAX245-5476

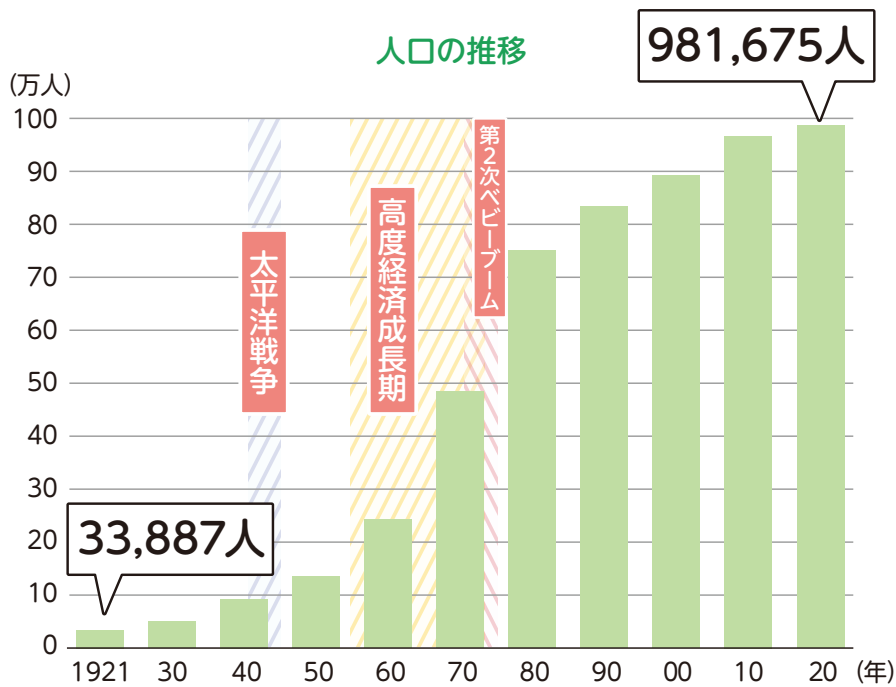
100年のあゆみ

千葉市が誕生して100年。戦争からの復興や高度経済成長などを通して、千葉市がどのように発展してきたか、さまざまなデータから振り返ります。

人口は100年間で約30倍に!

1921年の市制施行時の人口は33,887人でした。その後、高度経済成長期の転入増や第2次ベビーブームにより大きく人口を伸ばしました。

近年でも緩やかな増加傾向が続いており、2020年には、市制施行時の約30倍の98万人が居住する都市となりました。



総務省国勢調査、千葉市住民基本台帳人口、総理府人口調査、千葉市推計人口より

面積は100年間で約18倍に!

千葉市は、1937年から1969年までの間の7回にわたる合併で大きくなりました。また、東京湾の埋め立ても行い、面積はこの100年間で約18倍の271.78km²となりました。

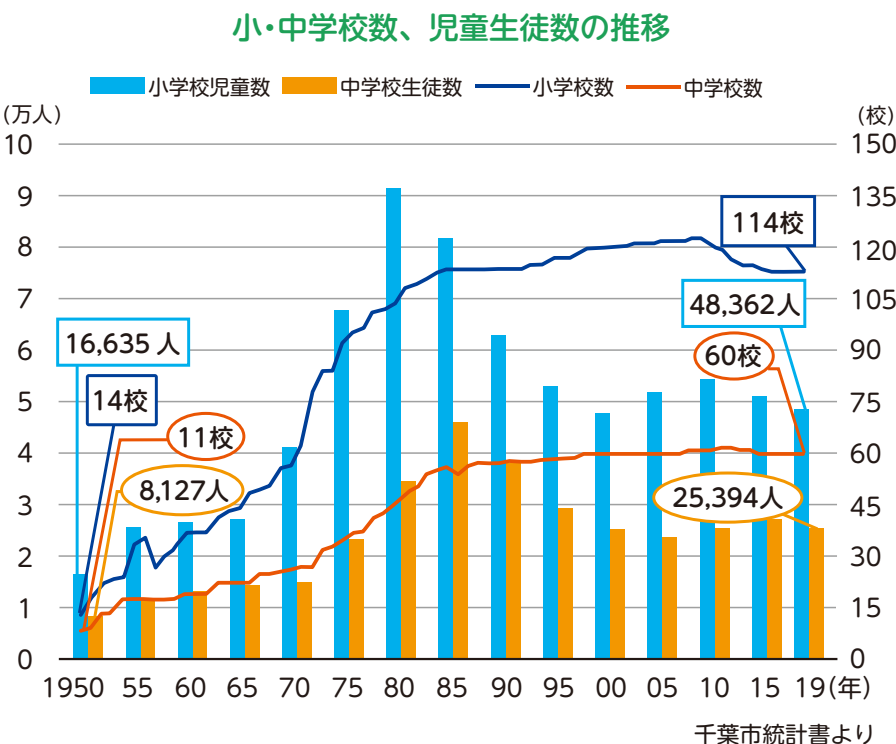


年	合併町村	面積
1921	市制施行時	15.22km ²
1937	検見川町、都賀村、都村、蘇我町	66.88km ²
1944	千城村	86.33km ²
1954	犢橋村	107.24km ²
1954	幕張町	117.24km ²
1955	生浜町、誉田村、椎名村	158.81km ²
1963	泉町	210.84km ²
1969	土気町	249.68km ²
2020	現在	271.78km ²

小・中学校児童生徒数は、高度経済成長期に大きく増加

小・中学校児童生徒数は、高度経済成長期の人口増加や第2次ベビーブームで大きく増加した後、1980年代後半からは減少に転じました。

また、学校数も児童生徒数の増加に伴い増加しました。

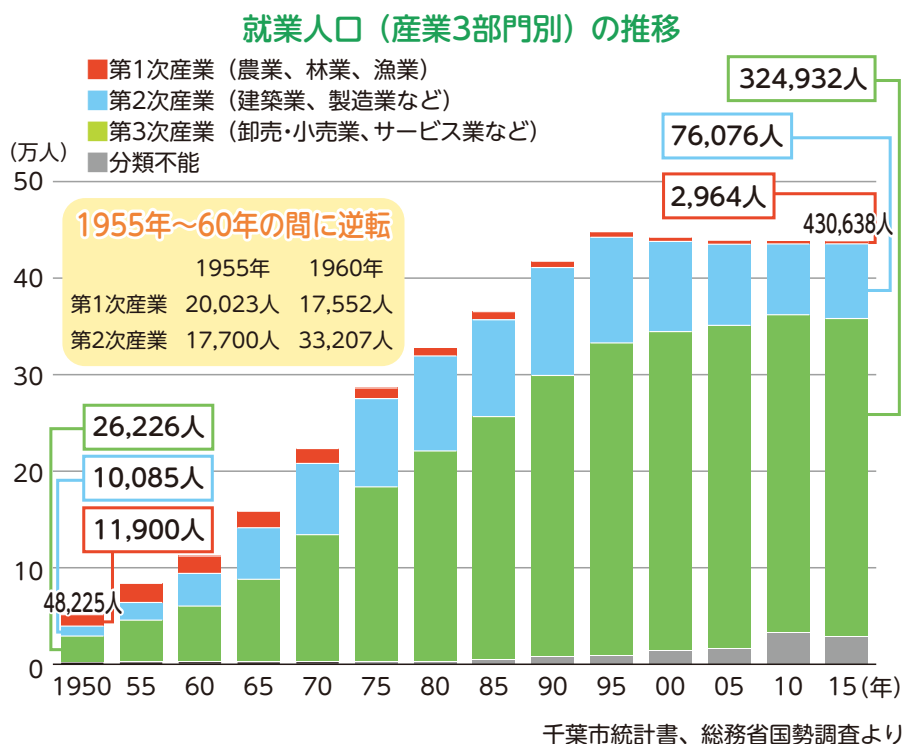


千葉市統計書より

就業人口の構成比は、一貫して第3次産業が中心

千葉市は、県都として多くの公共施設や商業施設、事業所などが集積しており、一貫して第3次産業が産業の中心となっています。

また、1953年に川崎製鉄千葉製鉄所(現JFEスチール(株)東日本製鉄所)の操業が開始したことに伴い、第2次産業の人口が増加し、第1次産業と第2次産業の就業人口が逆転しました。



千葉市統計書、総務省国勢調査より